

## 年間指導計画および評価の計画作成に当たって

- 本資料のねらい

本資料は、平成27年度版 光村図書 小学校「書写」を使用するに当たって、年間指導計画を作成する際に参考になることを意図して作成したものである。年間指導計画の作成に当たっては学習指導要領の基本的な考え方と国語科の目標を根底に据えつつ、新教科書を活用して、それをいかに各学校の実態に応じて実効性のあるものにするかという点に配慮されたい。

- 学校・学級の実態に応じた指導計画および評価の計画作成

(1) 指導計画の作成について

指導計画の作成においては、教科書の単元の構成や配列を生かすことと、それを各学校・学級の実態に応じてアレンジすることとの両方が求められる。そのためには、教科書の各単元の特性を、単元に想定されている指導内容・言語活動の面で捉え直し、その特性がより生きるように指導計画を立てていくことが大切なことであろう。例えば、次のような観点が考えられる。

- ① 単元の配列を考慮し、4月から学習した経験を生かして
- ② 前の学年の学習経験や身につけた力を考慮して
- ③ 学校独自の「総合的な学習の時間」との連携を図って
- ④ 教材の話題・題材・活動内容から国語科国語や他教科との関連を図って
- ⑤ 学校行事や地域の行事との関連を図って
- ⑥ 年間を見通した「帯化」した扱いで

(2) 評価の計画作成について

本資料における評価項目は、学習指導要領の指導事項をもとにして作成したが、その単元の特性を生かし、想定される「主な指導事項」と「学習活動」の具体的内容に沿って、「評価規準 おおむね満足できる状況」の例を挙げた。こうした評価は、単に児童の実現状況を見るのではなく、一人一人の児童の成長のために生かされなければならない。計画的に評価活動を実施し、継続的に学習活動全体の習得状況を把握することと、児童一人一人の学習状況を理解して個に応じた指導の資料として活用することが求められる。

なお、各学年の授業時数は、学習指導要領に示されている「年間30単位時間程度」を基にしつつ、学校や児童の実態に応じた指導ができるよう、年間30～35時数を目安として設定した。新しい国語科書写の授業のあり方を旨とした年間指導計画および評価計画の作成に本資料が活用されることを願うものである。

学年 \ 時数	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語科総時数	306	315	245	245	175	175
「書写」の時数	30-35	30-35	30-35 〔毛25-30〕 〔硬5-7〕	30-35 〔毛25-30〕 〔硬5-10〕	30-35 〔毛25-30〕 〔硬5-10〕	30-35 〔毛25-30〕 〔硬5-10〕

## 本資料の構成要素

この資料において配列・構成した要素は、以下のとおりである。

1	2・3・4	5	6	7
月	単元名・教材名・指導目標	時数	学習活動	評価規準
4月	あさ(そらがき)【教科書 巻頭】 ◎腕を大きく動かして「あさ」を空書きし、書写学習に対する関心を高めることができる。〔(2)ア〕	適宜	1腕を大きく動かして「あさ」を空書きする。 2「あ」や「さ」がつく言葉を探して空書きしたり、教科書の文字を指でなぞったりする。	【関】書写学習に興味を示し、文字を大きく空書きしようとしている。 【知】書写学習では文字を学習することを理解している。 【技】楽しみながら空書きしている。

- 1 月 — 学習する時期を月割りにして示している。
- 2 単元名 — 各単元の単元番号と題名を示している。
- 3 教材名 — 各教材の題名と教科書の該当ページを示している。国語教科書と連動できる教材は、末尾に〈国語〉と示した。
- 4 指導目標 — 各教材の主たる学習場面であり、確実に身につけることが望まれる指導目標を◎で、主たる学習場面はほかにあるが、そこで学習することでそれを支えたり定着させたりすることが望まれる指導目標を○で示した。また、関連する学習指導要領の指導事項を末尾の〔 〕内に記号で示している。
- 5 時数 — 教材ごとの学習に必要と考えられる所要時数を算用数字で示した。3年生以上の学年については毛筆と硬筆に分けて示しているが、毛筆・硬筆を一体化させた指導の工夫を前提とし、学校・学級の実態に応じて展開されたい。なお、授業時数の1単位時間は45分を想定している。
- 6 学習活動 — 教材ごとに、児童が実際に活動する場면을想定し、学習活動の流れを段階に分けて端的に示した。
- 7 評価規準 — 学習活動に即して評価規準を観点別に例示した。規準は、その単元・教材において身につけさせようとして指導した能力について「おおむね満足できる」と考えられる状況を、一人の児童の姿として想定したもので、学級全体の「到達度」を示すものではない。「おおむね」とは、その学年の児童の行動・判断・思考の力として期待しうる状況で、指導の成果として「満足」し納得できる内容である。

評価内容は、次の三つの観点について設定している。

- ①【関】…書写への「関心・意欲・態度」の評価。児童が書写学習に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を身につけているかを見る。
- ②【知】…書写の「知識・理解」の評価。
- ③【技】…書写の「技能」の評価。